特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付けなど。
（※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容）

＜特筆すべき教育活動＞

＜学部学生短期留学派遣の取り組み＞

学部学生対象の教育競争的資金「理数学生応援プロジェクト」（平成20－23年度）では，研究科長裁量経費による支援も受けて，毎年，オーストラリア・シドニー大学へ，選抜の上10名程度を約2週間，短期留学させている。このプログラムは，参加学生に大変好評であり，現在，参加学生の中から，交換留学生としてより長期に海外の大学で学びたいと希望する学生が増えている。

＜科学オリンピック入試とグローバル30入試の検討＞

平成21－22年度に標記二つの新しい入学試験の導入について検討し，平成23年度入試より導入することを決めた。

＜特筆すべき研究活動＞

＜論文引用数から見た研究活動の高さ＞

トムソン・ロイター社は平成21年4月13日に論文引用数による1997－2008年までの11年間の日本の研究機関ランキングを公表した。その中で，本部局の研究活動が中心となる物理学と化学の分野で，それぞれ，我が国で2位と4位，世界でも7位と17位という高位に位置づけられた。

＜受賞・受章について＞

平成21年度，本部局の教員や学生の研究活動に対し，合計43件の受賞・受章があった。主な受賞者は次の通り。紫綬褒章（地球物理学専攻，中澤高清教授），仁科記念賞（物理学専攻，田村裕和教授），日本数学会解析学賞（数学専攻，小川卓克教授），同代数学賞（数学専攻，雪江明彦教授），文部科学大臣若手科学者賞（化学専攻，岩本武明教授；物理学専攻，佐藤宇史助教）など。

＜研究成果の情報発信＞

また，天文学専攻千葉柾司教授らの国際研究チームが，「アンドロメダ銀河ハローに新しい恒星ストリームを発見」したことなど，重要な研究成果が新聞等のマスメディアで多数報道された。

＜特筆すべき社会貢献活動等＞

＜アウトリーチ支援室設置によるアウトリーチ活動の活発化＞

本部局は，平成21年6月，教育研究支援部の中に，専任助教1名を配置したアウトリーチ支援室を設置し，アウトリーチ活動を積極的に展開した。平成21年度，本部局所属教員によるサイエンスカフェでの講義，出前授業などは，合計79件に達する。また，気象庁火山噴火予知連絡会，内閣府原子力安全委員会，仙台市環境審議会など，政府や地方自治体の審議会や委員会の委員に，部局構成員の多くが参加し，政策立案等に貢献している。

＜国際リニアコライダー（ILC）に関する岩手県との共同研究＞

ILCに関する岩手県との共同調査研究の立案も社会貢献活動の一環として位置づけられよう。この調査は，ILCの候補地である北上山地の調査研究を，本学と岩手県との共同プロジェクトとして立ち上げるべく，本部局が中心となって準備したものである。本学の経費は，総長裁量経費と研究科長裁量経費。本事業は平成22－23年度に実施される。この内容はメディアでも度々取り上げられている。（平成22年2月16日河北新報，4月14日岩手日報など多数）